

「せりぼう」は、子どもたちが
 自然の中で一番元気になれる場所

NPO法人 子ども広場あそびこどもたち



NPO法人 子ども広場あそびこどもたち <https://seribou.jimdo.com/>

自然の中で、火を使った遊びや木登り、工作などが自由でできる「冒険遊び場」。プレーリーダーと呼ばれる大人が見守る中、「子どもたちのやってみよう」と自由な発想が実現できる場所として、町田市内では常設型が2か所、定期開催型が3か所ある。その一つがせりがや冒険遊び場、通称「せりぼう」だ。春には沢山の桜で、夏には噴水のじゃぶじゃぶ池で賑わう広大な芹ヶ谷公園の北側斜面の一角に、手作りのテールやターザンロープ、遊具やかまどなどが楽しそうな空間を演出している。

3 人の子育て中に、子どもたちをもっと自由に遊ばせたい、そんな思いがきっかけで活動を始めた岡本恵子さんは、子育てが終わった現在でもせりぼう中心の生活を送っている。「私が子どもの頃は、自由に、そしてたくましく遊べる場所がいっぱいあった。でも今は違う。遊べる場所も少ないし、公園の中ではボール遊びも禁止、勿論火も使えない。アレも駄目、コレも駄目。そんな自由を奪われた子どもたちのために、ルールに縛られずに遊べる場を提供してあげたかった。年齢も関係なく、年上の子どもが下の子がまざりあって遊ぶ、昔み

たいな自然な関係も作りたかったし。」使命感にも似た思いに突き動かされ、活動を始めたのは20年前のことになる。

最 初は小中学校のフリースペースを利用し、その後は地主さんが好意で貸してくれた成瀬三ツ又の「たぬき山」で15年間活動した。竹林の中で作った秘密基地に子どもだけでなく、大人たちもワクワクした。夢中でカエルやクワガタを捕まえる子どもたちに、懐かしい昔の記憶も甦った。

者は3万人近くまで及んだ。町田市民だけでなく、近隣からの来場者も増えている。

生 活が豊かになればなるほど、子どもを取り巻く環境は希薄になる。そんな時代だからこそ、自由な遊びを通して子ども時代を過ごすことの大切さ、そして誰でも集える場として、せりぼうが地域コミュニティの拠点になれると信じている。

出来上がった遊び場やイベントの数々は子どもたちだけではなく、支える大人たちにとっても、かけがえない場所であり、大切な財産だ。そこで得られる沢山の想い出は、「一生の宝物になるにちがいない。『まだまだやりたい』ことはいっぱいあるの。やり過ぎだっけって自分でも思うこともあるけれど」と笑う岡本さん。せりぼうの進化はまだ止まらない。



A



B

活動日は月曜と火曜、年末年始とお盆を除く毎日、2016年度の開園日は延べ250日、来場



E



D



C

The Machibito — Chitaki ni Ikiru

A・林のアトリエ「染めよう虹色エコバッグ」の作品たち B・18mの布を自然素材で染める「野染め」 C・子どもたちから「うさぎ」と慕われているプレーリーダーの岡本恵子さん D・子育てママ向けの「大人の外カフェ」 E・パフォーマーによる音楽イベントも人気
 画像提供：岡本千尋